



きむら えいこ かつどう ささ 木村英子の活動を支えてくださるみなさま

きむら えいこ こっかいかつどう 木村英子の国会活動を 知ってください！

きむら えいこ じむしょ ゆーちゆうぶ
木村英子事務所 YouTube
では、国会質疑をライブ
配信しています。
ぜひご視聴ください！

えいこのかけはし かいいんぼしゅうちゅう 会員募集中

しょうがいしゃ けんじょうしゃ
障害者も健常者もともに生きていけ
る社会を目指して活動しています。
ぜひご賛同ください。

【会員特典】

- ▶ えいこのかけはしだよりをお届け
ごりゅうかい しょうたい ねん かい
交流会へのご招待（年1回）

【会費】

ねんかん えん ひとくち
年間 / 2,000 円（1口）

えいこのかけはし グッズのご案内

あたらしいデザインの新 T シャツ
オリジナルボールペンがで
きました！
きむら えいこ ウェブサイトから
購入できます！

きふ あんない ご寄附のご案内

みなさま ぎふ
皆様からのご寄附は、えいこの
かけはしが取り組んでいる政治
活動、事務所運営費等に活用さ
せていただきます。ご無理のな
い範囲でご協力いただけました
ら、ありがたく思います。
くわしくはウェブサイトをごら
んください。

くわしくは
きむら えいこ
木村英子の
ホームページへ



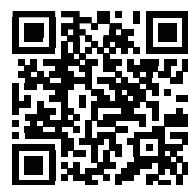
はっこうもと
発行元

えいこのかけはし

TEL.03-6550-0314

E-mail info@eiko-kimura.jp

https://eiko-kimura.jp/



木村英子



ねん ふゆごう
2024年 冬号



https://eiko-kimura.jp/

えいこのかけはし だより



きむら えいこ ねん かつどう ほうこく 【木村英子1年の活動報告】

- 1 インクルーシブ教育の実現を目指して
- 2 国会質疑ダイジェスト
- 3 2023 年 木村英子 国会質疑一覧
- 4 議員活動 5 年目を迎えて

ほうこく
報告



インクルーシブ教育の 実現を目指して 報告

分けられていた幼い頃

障害児だけが集められた養護学校で学ぶ事があたりまえだった私にとって、健常児と一緒に同じ学校で学ぶことは想像がつかないことでした。施設や養護学校で接する健常者は医者、看護師、教師などの大人がほとんどで同じ年の健常児の友だちがいなかったからです。外の風景は窓越しやテレビの世界で直接触れたり、体験することよりも少ない日常でした。ですから施設や養護学校という隔離されたところから地域へ出てきて私が痛感したことは、障害児と健常児が分けられている事があたりまえの社会で生きていくには差別と闘わなくてはならない現実でした。お互いの存在が出会わない社会、それがあたりまえの秩序になってしまっています。

施設を拒否して社会へ

ですから私は19歳で社会へ出るまで自分が分けられていた事も、そして社会は私の居場所ではなかった事も知らないで育ってきた現実に愕然としました。重度障害者の私が地域で生きていくためには他者の支援が不可欠ですが、健常者の人たちのコミュニケーションすらわからない中で街頭や大学でボランティア募集のビラをまき、今日の食事やトイレの介護をしてくれる人を探して、施設に戻りたくない一心で生きてきました。私が地域で生きられる源は他者とのコミュニケーション。支え合う関係が私の

命を繋いでいます。ですから障害者と健常者を分けないことはお互いの存在を支え合える力を養い、共に生きていくインクルーシブ社会の実現への近道になると私は思っています。私にとってインクルーシブ教育の実現は地域で生きていくためにも、そして議員としての取り組みたい課題の原点でもあります。

精道小の子どもたちから学んで

そこで2023年2月24日に、日本では数少ない、障害児と健常児が同じ学級で学んでいる実践をしている兵庫県芦屋市の精道小学校を視察に行きました。精道小学校では、知的障害や身体障害などのある障害児18人が在籍し、健常児と同じ学級と一緒に授業を受けていました。仕切りのない教室はとても開放的で子どもたちは見がくしや、なわたし、はなしょうがいじ学者に慣れているようで私たちに話しかけてくる障害児の子もいました。精道小には特別支援学級がありますが、



とびら かいほうかん きょうしつ ようす
扉のない開放感のある教室の様子

しょうがいじ けんじょうじ わ おな きょうしつ いっしょ じゅぎょう
障害児も健常児も分けることなく同じ教室と一緒に授業を
う
受けており、そのかたわらで教師や支援員が生徒たちの
こ み ゆ に けー し ょん みまも いんしやうてき
コミュニケーションを見守っていたのが印象的でした。

何よりも驚いたのは大人が関わらなくても障害のあるなしに関係なく、生徒同士で笑いながら手伝い合っている姿でした。私がいた養護学校では私のできないところを手伝ってくれたのは教師や看護師など大人しかいませんでした。同じ年の健常児の友だちに手伝ってもらう事はほとんどなく、健常者の友だちができたのは19歳で施設を拒否し地域へ出てきてからでした。精道小学校の子どもたちは誰かに頼まれたわけでもなく介護する側される側などの垣根もなく、ごく普通に支え合っているその姿に羨ましく思いました。自分の置かれてきた幼少期の環境がいかに普通でなく、地域で生きる時自分を苦しめてきた原因は分けられてきた事にあることを痛感して悲しさと怒りが込み上げてきました。そして子どもたちの授業の様子を見て、わ分けられていることでコミュニケーションの機会が奪われていることが地域で生きる時の弊害であると実感し、それと同時に共に学び共に生きられる環境は優しい社会を実現できる方法だということ子どもたちから学びました。



せいどうしょうがっこう せいと みな せんせい みな
精道小学校の生徒の皆さん、先生の皆さん、ありがとうございました。



ねん がつ にち こくみんせいかつちやうさかい
2023年2月8日 国民生活調査会

尾上浩二さんをお呼びして

2022年9月、日本は国連の障害者権利委員会から分離教育の廃止をし、インクルーシブ教育へ移行するよう勧告を受けたにもかかわらず、文科省は「特別支援教育を中止することは考えていない」と言っています。2023年の参議院国民生活調査会では、障害当事者である尾上浩二さんを参考人としてお呼びして、養護学校と普通学校に通った経験をもとに、インクルーシブ教育の必要性についてお話しいただきました。尾上さんが普通学校に通っていた経験が、大人になってから社会に出たときに活かされたというお話を聞いて、あらためて障害児と健常児が同じ教室で学べるインクルーシブ教育の必要性を実感しました。

文科省が令和4年4月27日に出した インクルーシブ教育に逆行する通知

に対して、
撤回を求めた私の質疑（2022年11月15日質疑）

については、

こちらをご覧ください



障害児が普通学級で共に学ぶための支援員の 予算の増額を求めた私の質疑（2023年3月27日質疑）

については、

こちらをご覧ください



2

こっ かい しつ ぎ だ い じ え す と 国会質疑ダイジェスト



わたし ぎいん ととき つらぬ せいじしんじょう さべつ ひと じんけん と もど
私が議員になった時から貫きたい政治信条は、「差別されている人たち」の人権を取り戻し、
支援の必要な障害者や高齢者、子どもたちが安心して生きられる社会を作ることです。

2023 年も信じられないほど困難を極めている人たちが生きにくくされる法律が成立してしまっています。私自身が議員になって、障害者をはじめとして様々なマイノリティの人たちの意見が反映されず、社会の中で取り残されていると実感しました。特に障害者の分野では、国連の障害者権利条約や国内法である障害者差別解消法が施行されても理念法にとどまり、国会において順守されていない仕組みに問題があると思っています。



【6 月 15 日 参議院 内閣委員会】

えるじーびーていー り か い ぞうしん ほうあん し つ ぎ はんたいとうろん
LGBT 理解増進法案質疑・反対討論

【3 月 15 日 参議院 予算委員会】

しんこく かい ご ひと で ぶ そ く
深刻な介護の人手不足について



かい ご ひつよう しょうがいしゃ こうれいしゃ しんこく ひと で ぶ そ く
介護を必要とした障害者や高齢者の深刻な人手不足に
おいて、離職率や労働環境の改善にむけて、介護職の
賃金アップのために処遇改善加算を増額するよう要求
しました。



ながねん さべつ えるじーびーていー とうじしゃ けんり まも
長年にわたり差別をされてきた LGBT 当事者の権利を守
るために作られた法案のはずが多数派の権利を脅かす危険
な存在として LGBT 当事者の意見が十分に反映されてい
ない法律が作られてしまいました。
多くの当事者からは、この法律の制定によって理解が増進
されるのではなく、差別が助長されるのではないかと不安
の声が上がっています。

【5 月 18 日・6 月 1 日 参議院 法務委員会】

にゅうかん ほうあん し つ ぎ
入管法案質疑



なんみんしんせいちゅう かた きょうせいそうかん にゅうかんほうかいあくあん
難民申請中の方を強制送還できるようにする入管法改悪案
に対し、難民認定を第三者機関が行うなどの外国人の人権
を保障するための野党対案を提出。私も法案提出者として
法務委員会において答弁をしました。
入管施設内で外国人を劣悪な環境におき、虐待で死亡させ
た事件に対して、私の受けた虐待の経験を通して、収容さ
れている外国人の人権保障を訴えました。

【11 月 9 日 参議院 国土交通委員会】

こく どうかうつうだい がっこう さべつ て きけんしゅう
国土交通大学校の差別的研修について



2016 年に施行された障害者差別解消法において、行政
は対応指針の作成や研修を行い差別解消に努めなければ
ならないことが法的に明記されたにも関わらず、その
行政職員に対し 10 年にわたり、障害者や高齢者に対す
る「差別的な研修」が行われていたことについて質問し
ました。
国土交通大臣は謝罪をし、今後の改善を約束してくれま
した。



【予算委員会】

- 3月15日 「深刻な介護の人手不足について」
- 3月27日 「障害のある子もない子もともに学ぶためには？」

【国土交通委員会】

- 3月9日 「無人駅の問題について」
- 3月17日 「UD タクシーに乗れない車いすの人がいるの？」
- 4月6日 「気象業務法及び水防法改正案「災害時の情報保障について」
- 4月11日 「視覚障害がある人が安全に街を歩くには？」
- 4月18日 「地域公共交通活性化再生法改正案「参考人質疑」
- 4月20日 「地域公共交通活性化再生法改正案「誰一人取り残さない公共交通を！」
- 5月23日 「道路整備特別措置法等改正案「参考人質疑」
- 5月25日 「障害があっても安心して船に乗りたい！」
- 5月30日 「道路整備特別措置法等改正案「困窮する現役世代の負担軽減を！」
- 6月1日 「EV 充電施設はバリアフリーなの？」
- 6月6日 「空き家対策特措法改正案「誰もが安心して暮らせる住まいの確保を！」
- 11月9日 「国交省の職員研修の問題点について」「劇場や映画館のバリアフリーを！」
- 12月5日 「障害者割引乗車券のウェブ購入なぜマイナンバーカードがないと買えないの？」

【国民生活・経済及び地方に関する調査会】

- 2月8日 参考人質疑 テーマ：生活困窮・格差、子ども・子育て世帯、障害者
- 2月15日 参考人質疑 テーマ：地域経済、限界集落、公共交通
- 4月12日 参考人質疑 テーマ：誰もが取り残されず希望の持てる社会の構築のためには？
- 4月26日 議員間意見交換「障害がある人もない人も共に学び共に生きられる社会の実現に向けて提案します！」

【法務委員会】

- 5月18日 野党提出の入管法・難民等保護法発議者答弁
- 6月1日 野党提出の入管法・難民等保護法発議者答弁②

【内閣委員会】

- 6月15日 LGBT 理解増進法案質疑・反対討論

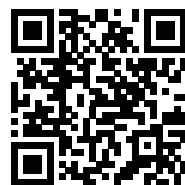
せいふさんあん こうぎ ぎゅうほ
政府予算案に抗議しての牛歩

じゅうどうしょうがいしゃ ぎいんかつどう つと
重度障害者に議員活動が務まるのか。そう言われながら
ねんめ むか たいちよう い じ かくとう
もすでに5年目を迎えました。体調維持と格闘しながらの
こっかいかつどう そうぞういじょう きび しょうがいしゃ ひと
国会活動は想像以上に厳しいものでしたが、障害者の人た
よ そうだん ぎょうせい うった かくとう ひび
ちから寄せられる相談を行政に訴え格闘する日々でした。
わたし しょうがいしゃ きび げんじょう すこ い
私たち障害者の厳しい現状を少しでも生きやすくするた
ぎいん しょうがいとうじしゃ こえ とお
めに議員になりましたが、障害当事者の声が通りにく、
こっかい しょうがいしゃ りかい すす じょうきょう
国会においての障害者への理解が進まない状況において、
とうじしゃ ぎいん せいじ さんか ひつようせい
もっと当事者が議員となって政治に参加していく必要性を
つかん
痛感しています。

ことし がつ ついたち の とはんとうじしん お げんざい おお
今年1月1日、能登半島地震が起き、現在も多くの
しょうがいしゃ こうれいしゃ しえん ひつよう かたがた と のこ
障害者や高齢者などの支援の必要な方々が取り残され
じょうきょう ねん お ひがしにほんだいいしんざい
ている状況です。2011年に起きた東日本大震災をうけ
ねん にほん こくれんぼうさいせかい かいぎ ひら だれ
て、2015年には日本で国連防災世界会議が開かれ、誰
はいじょ だれ はいじょ だれ はいじょ
も排除されない、誰も排除しない、誰も排除させない、
いんくる ー し ふぼうさい かんが あたら う だ
インクルーシブ防災という考えが新しく打ち出されまし
た。しかし今回の震災ではその教訓が生かされず、避難所
こんかい しんざい きょうくん い ひなんじょ
に行くことができず、余震の続く中で不安に襲われながら
い よしん つづ なか ふあん おそ
も、自宅にいるしかない当事者やその家族、また避難所に
じたく とうじしゃ かぞく ひなんじょ
ひなん こえ めいわく い お
避難できたとしても、声がうるさい、迷惑だと言われ追い
だ しょうがいしゃ たくさん
出されてしまっている障害者が沢山います。

ころなか はつ たいめん とうりゅうかい こくせいほうこく こっかいけんがくつ あー
コロナ禍があけて初の対面による交流会(国政報告)と国会見学ツアー

どうしたらさいがい じ しえん ひつよう しょうがいしゃ こうれいしゃ
被災時に支援の必要な障害者や高齢者が、
しみん ひと いっしょ ひなんじょ たす あ
市民の人たちと一緒に避難所で助け合うことができるの
じっさい くまもと しんざい ひさい じゅうどうしょうがい こ
か、実際に熊本の震災で被災した重度障害のお子さんを
も ほごしゃ かた とうじ はなし き
持つ保護者の方から当時のお話を聞きました。そのお子
さんおお くるま の いりようてき け あ ひつよう
さんは大きな車いすに乗っていて、医療的ケアが必要
でしたが、地域の普通学校へ通っていてクラスの友だ
ちほごしゃ ひと ふだん つ あ
ちや保護者の人たちと普段から付き合いがあったこと
で、震災の時、地域の人たちに助けられたと聞きまし
た。ふだん ちいき ひと こみゆ にけーしょん
普段からの地域の人たちとのコミュニケーションが
しょうがいじ かぞく いのち たす わたし はな
障害児とその家族の命を助けたのです。私はそのお話し
き とき おさな とき ちいき おな がっこう まな
を聞いた時、やはり幼い時から地域の同じ学校で学び
ちいき こ おな こみゆ にてい なかく
地域子どもたちと同じコミュニティの中で暮らす、そ
かんきょう とどの たす あ かんけいせい つく こと
んな環境が整っていれば助け合う関係性を作る事ができ
ることを学びました。
わたし しょうがいしゃ ちいき い いのち きけん およ さいがい
私たち障害者が地域で生きるとき、命の危険が及ぶ災害
じ はもとより へいじ しょうがいしゃ けんじょうしゃ わ
時はもとより、平時から障害者と健常者を分けないことに
よって、お互いの命を助け合える関係性を築くことができ
ると思います。これからも差別をなくし共に生きられる
しゃかい め ぞ かつどう つづ
社会を目指して活動を続けていきます。

きむら えいこ
木村 英子

くわしい
しつぎ ないよう
質疑の内容は
きむら えいこ
木村英子の
うえぶさいと
ウェブサイトから

木村英子

